Mandolin Concert

相模原マンドリン倶楽部

第21回定期演奏会

2005年10月29日（土）　14:00開演

グリーンホール相模大野　大ホール

ごあいさつ

本日はお忙しい中、第２１回定期演奏会にご来場いただきまして誠にありがとうございます。

この１年の動きを振り返りますと、まず、部員の数が一段と増え総勢６２名を擁する大所帯の倶楽部となったことがあげられます。次に、遅ればせながら念願のホームページを今年５月末に開設することが出来たことです。何かの折に見ていただければ幸いです。

昨年、定演終了と同時に本定演の楽譜を配布し、ただちに練習に取り組んでまいりました。難曲も多々あり戸惑いもありましたが、部員一同、持ち前のフレッシュな気持ちと、情熱をもって練習を積み重ね、やっと今日を迎えることが出来ました。

わが倶楽部は、マンドリン音楽に対する思い入れと‘和’の気持ちが礎になり現在に至っており、‘和’は、“優しさと笑いと気遣い”を生み出しております。

今日はそのあたりの気持ちが皆様に伝わる様、一生懸命演奏させて頂きますので、ゆっくり、ゆったり、おくつろぎいただき、お聴き下さいます様お願いいたします。

部長　柳生　秀人

活動レポート

2004年　10月11日（月）第20回定期演奏会（グリーンホール相模大野）
　　11月23日（火）新磯野デイケアサービス秋祭り（相模原市新磯野デイサービスセンター）
　　12月11日（土）第10回部内発表会（相模原市立総合学習センター）
　　12月11日（土）2004年度臨時総会（相模原市立総合学習センター）
2005年　4月17日（日）神奈川マンドリンフェスティバル（横浜市栄公会堂）
　　5月28日（土）2005年度定期総会（相模原市立総合学習センター）
　　9月23日（金）合宿（ウェルサンピア多摩）
　　～24日（土）
　　10月22日（土）強化練習（グリーンホール相模大野）
　　10月29日（土）第21回定期演奏会（グリーンホール相模大野）
2006年　1月15日（日）合奏コンクール（日本マンドリン連盟関東支部主催）本選出場予定

《詳細はＨＰ参照》

演奏曲目

第1部

指揮　大矢　利夫

歌劇「ナブッコ」より序曲　作曲　G．ヴェルディ　編曲　A．モルラッキ

弦楽のためのアダージョ　作曲　S．バーバー　編曲　久保田　孝

組曲「カレリア」より第３楽章“行進曲風に”　作曲　J．シベリウス　編曲　喜多　満鳥

喜歌劇「天国と地獄」序曲　作曲　J．オッフェンバック　編曲　喜多　満鳥

～～～休憩～～～

第2部

指揮　小林　淳子

プレリュード２　作曲　吉水　秀徳

叙情の時　作曲　R．カラーチェ

組曲「田園にて」　作曲　G．De．ミケーリ　編曲　石村　隆行

Ⅰ．夏の夜明け
Ⅱ．急流
Ⅲ．栗の木の下で
Ⅳ．祭り

曲目紹介

歌劇「ナブッコ」より序曲

G. ヴェルディ

歌劇「ナブッコ」は、ヴェルディの３作目の歌劇で、1842 年にイタリア・ミラノ・スカラ座で初演され、当時、大成功をおさめ、ヴェルディの名声は決定的なものになりました。

歌劇の正式な名前は「ナブコドノゾル」といい、紀元前６世紀の古代バビロニア王ネブカドネザル２世とバビロニアに虜囚として連行されたヘブライ人たちとの物語（バビロニア幽囚）を扱った、旧約聖書にもとづいた歴史劇です。

本序曲は、劇中に登場する重要な旋律を用い、接続曲風の構成になっています。アンダンテのコラール風序曲に続いて、「呪い」の動機と、有名なヘブライ人の合唱「行け、わが思いよ、金色の翼に乗って」の旋律、僧侶の合唱の旋律などにより盛り上がり、「呪い」の動機が再現して力強く曲を閉じます。

弦楽のためのアダージョ

S. バーバー

バーバーは、1910 年アメリカ・ペンシルヴェニア州に生まれ、1981 年ニューヨークで没した作曲家です。フィラデルフィアのカーティス音楽学校で作曲を修め、さらにイタリア・ローマのアメリカン・アカデミーで２年間学び、この間に書かれた「１楽章の交響曲」「弦楽のためのアダージョ」は彼の出世作として注目されました。

「弦楽のためのアダージョ」は、1935 年に作曲した「弦楽四重奏曲第１番」の第２楽章を弦楽オーケストラ用に編曲したもので、清らかな叙情と情熱をたたえた作品として広く知られるようになりました。近年では映画「エレファントマン」「プラトーン」、ＴＶドラマ「冬のソナタ」などの音楽に取り上げられています。

組曲「カレリア」より第3楽章”行進曲風に”

J. シベリウス

シベリウスは 1865 年フィンランドに生まれ 1957 年に没した同国を代表する大作曲家です。1917 年のフィンランド独立に際して人々の愛国心を鼓舞した交響詩「フィンランディア」や交響曲第２番をはじめ、今日最も頻繁に演奏されるヴァイオリン協奏曲、７つの交響曲、フィンランドの民族叙事詩「カレワラ」に基づいた「トゥオネラの白鳥」や「タピオラ」などの多くの交響詩など、数多くの傑作を残しています。

組曲「カレリア」は、新婚旅行でフィンランド東部のカレリア地方を訪問した際、伝統的な行事、音楽、民話などに興味を持ったシベリウスが野外劇音楽として作曲し、後に組曲として改作したものです。

組曲は「間奏曲」「バラード」「行進曲風に」からなりますが、本「行進曲風に」は、芸術的ながら明るい曲想で、テレビのテーマ音楽に使われてから急速に知られるようになりました。

喜歌劇「天国と地獄」序曲

J. オッフェンバック

オッフェンバックは 1819 年ドイツに生まれ、1880 年パリで死去したフランスの作曲家です。父からヴァイオリンを学び、パリ音楽院でチェロと作曲を修め、劇場のチェロ奏者として音楽生活に入りました。はじめは軽い舞曲などの作曲をしていましたが、みずから劇場経営をしながら生涯に 102 曲のオペレッタを作曲し、この分野に大きな功績を残しました。

「天国と地獄」は、彼のオペレッタの中で最大の傑作とされているだけでなく、あらゆるオペレッタの中でも最も有名なものの一つとなっています。原題は「地獄のオルフェ」で、ギリシャ神話のオルフェウスの話を使いながら、機知にあふれる社会風刺を盛り込んだ台本に、軽妙快活な音楽をつけたものです。

本序曲は、歌劇の幕開きにふさわしく、劇中のさわりの主題を寄せ集め編んだもので、後半部は緊迫感が満ち、特に最後のギャロップの部分は、フレンチカンカンやＣＭの替え歌などで、耳慣れた音楽となっています。

プレリュード2　　吉水秀徳

吉水秀徳は1961年大阪に生まれました。四条畷高校のマンドリンクラブを経て、大阪市立大学ギター・マンドリンクラブでは指揮者を務め、在学中に『２つの動機(モチーフ)』を作曲し、自ら指揮、発表しました。卒業後は京都を本拠地とするエルマノ・マンドリン・オーケストラで活躍しつつ、作曲を行っています。この曲について作曲者自身が次のように記しています。

「曲は緩―急―緩の３部で構成されている。二長調の単純ながら優しい第１主題、ロ短調の躍動的な第２主題、そして第１主題の忠実な再現部と、全体的にはさほど複雑な形式をとっていない。作曲に当たっては気軽に演奏できるよう、演奏時間が 10 分程度の中規模の曲であること、マンドリンオーケストラ本来の６パート編成でオーケストレーションされていること、現代的な響きを含みながらも分かりやすさを伴っていることが目指されている。1989 年夏に作曲、同年９月に母校、四条畷高校によって初演された。」

叙情の時　　R. カラーチェ

作曲者ラファエーレ　カラーチェは 1863 年ナポリで楽器製造をしていたアントニオ　カラーチェの次男として生まれました。兄ニコラと共にナポリ音楽学校を卒業し、ラファエーレは作曲で最高賞を得ました。彼は、マンドリンとリュートの優れた演奏家であり、楽器製作者、また 180 曲もの曲を作曲し、楽譜出版も行う、すべてに秀でた才能溢れる人物でした。

1924 年(大正 13 年)に日本を訪れ、裕仁殿下(昭和天皇)並びに皇族方の前で御前演奏を行い、旭日章を受けました。東京、京都、名古屋、大阪でも演奏会を開き、レコード録音も行いました。

家族や友人から遠く離れて暮らす不安や動揺と、ふるさとに想いをはせる安らぎとが、心の中でせめぎ合うイメージを表現したこの曲は、いくつかの詩を読んで触発され作曲したとカラーチェ自身が記しています。

組曲「田園にて」　　G. De. ミケーリ

本曲は、同志社大学マンドリンクラブＯＢで、現在、同クラブ技術顧問の石村隆行氏が編曲されたものです。この曲について石村氏は以下のように解説されています。

「作者は 1889 年９月 26 日リグーリア地方のラ・スペツィアに生まれた。５才よりヴァイオリンを学び、15 才で最初のディプロマを得た。その後パルマのボイトー音楽院でＲ．フランツォーニに学び、５年後最高の成績で学位を得るが、そのまま同校に残りＩ．アッツォーニに対位法とフーガを学んだ。20 才の時、ブリュッセルのトムソン音楽院に入学、更にヴァイオリンの研鑽を積み一年後大賞を獲得した。続いてチューリッヒの音楽院でＡ．ウォルクマーの下で作曲を学んだ。1927 年イタリアに帰国、生地に定住して作曲家、音楽評論家として活動した。またヴァイオリニストとしてもヨーロッパの多くの都市や、果てはエジプトまでも演奏会を持つに至った。彼は晩年にベルガモ近郊コヴァに移り住み 1940 年９月 30 日同地で没した。Ｇ．デ．ミケーリは生涯約 160 曲ほどの作品を残したが、多くが管弦楽曲で、代表的な作品は三つの「小組曲」、「田園にて」、「エジプトの幻影」、「舞踏組曲」、「愉快な組曲」等、組曲の力作が多い。その他「ロマン的幻想曲」、早世した息子エンリコの為に書かれた組曲「追憶」、歌劇「四季」、ミサ曲、ヴァイオリンソナタなどがある。作品によってはやや音楽的深みに欠けるきらいもあるが、卓越した作曲技法と品位ある通俗性があいまって独特な作風となっている。彼の代表的な作品の多くはイタリアにあるサンレモの出版社、ベルトラーモより出版を見たが、本曲も 1928 年同社より発表されたもの。時期的に彼のイタリア帰国後間もない頃で、それまでに発表された一連の小組曲での経験を踏まえて書かれた前半期の作品群の総決算ともいえる作品である。それまでの大作にみられた一種のものものしさは姿を消し全体にのびやかなタッチで書かれている。」

（注：ラ・スペツィア、パルマ、ベルガモはいずれもイタリア北部の地名）

Members

◎トップ　○サブトップ

Conductor

大矢　利夫　　小林　淳子

1st Mandolin

◎窪田　成子　○山﨑　了三　　饗庭　裕子　　池田百合子　　石本　友子　　梅沢　典子
江原　徳至　　金山　新治　　川崎　紘子　　仁尾　真里　　濱地すぎの　　木田　絹子

2nd Mandolin

◎福谷　隆治　○舟田　徳穂　　藍澤　桃子　　綾部　文子　　粕谷眞理子　　桑田久美子
中井　顕成　　中重亜由美　　長澤　直子　　野沢　孝広　　樋口　忠雄　　樋口　三朗
藤枝　春代　　本田　博子　　矢島　友子　　吉野　昌重　　渡辺　礼子

Mandola Tenore

◎日置　和弘　○戸田　節子　　大熊　友子　　大矢　利夫　　岡林　誠士　　笛木　和美
古田　栄治　　水野　和則　　峯田　福代　　宮下　和子　　森　　順子

Mandolon Cello

◎井上　昌子　○寺田美千代　　飯田　正男　　市川久美子　　小山田正学　　金澤　葉子
小林　淳子　　錦戸　民子

Mandolone

宮本　皓永

Guitar

◎原田　　治　○和田真紀子　　池上　由子　　加登　文子　　田中　厚子　　中西　茂樹
長沢　久美　　新田美佐子　　宮本　紀子　　柳生　秀人　　吉田真紀子

Contra Bass

◎錦戸　雅子　○鈴木　保彦　　佐藤　文俊 (賛助)

Percussion

井川　知美（賛助）　小林めぐみ（賛助）　高野　幹子（賛助）　百瀬　充恵(賛助)

司会　矢崎ひとみ（賛助）

ステージマネージャー

岡林　誠士　　坂井　和彦 (賛助)

相模原マンドリン倶楽部連絡先　柳生 秀人

相模原マンドリン倶楽部ホームページ http://www.geocities.jp/sagamiharamc/index.html

印刷　長谷印刷

次回　第22回定期演奏会の御案内

日時　2006年10月21日（土）　14：00開演予定

場所　グリーンホール相模大野　大ホール